

令和7年度 特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立三笠小学校（外 10 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の編成の方針に係る公表に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針に係る公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立三笠小学校	http://www.kashima.ed.jp/~mikasa-el/wp?page_id=24990

2. 特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

2007年4月

2018年4月 変更

* 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実是我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

4. 地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「Colorful Stage KASHIMA～ひとあざやかに ひとつのまちに～」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

5. 実施の効果、課題および方向性

(1) 特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

【実施の効果】

1・2年生において外国語活動を導入した特別の教育課程を実施した結果、以下の効果があった。

- ・ピクチャーカード、動画を活用し（文字を介さずとも）、会話を通して学んでいる。
- ・ALTが児童の発達段階に合わせた英語の歌やゲームを提供し、児童が楽しみながら英語学習（第二言語学習）に取り組むことができている。
- ・低学年から外国語活動を行い、授業前の挨拶（天気の違い・何曜日・何日等）やTPRの

活用をすることで、中学年、高学年において、クラスルームイングリッシュ (stand up・sit down・raise your hands) の意味や動作が身に付き、活用できている。

【手立て】

- ・児童の学ぶ意欲を向上させ、一人一人が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを行っている。
- ・パフォーマンステストでは、ルーブリックやモデル例を見ながら、課題把握や単元で使う表現を確認して取り組んだ。

(2) 課題の改善のための取組の方向性

【外国語活動】

- ・低学年の児童が外国語活動に意欲的に参加できるよう、自己紹介や TPR・世界の国々の国旗、色や形・数・食べ物や有名なものの言い方や表現を繰り返し学習する。
- ・本校での特色ある取組の一環として、低学年から三笠スタイルを取り入れ、児童の学習内容の理解と学習ルールの確立を行っていく。また、3・4年生では、非言語(ジェスチャー、アイコンタクト)等を積極的に活用する学習活動を引き続き行う。
- ・学校のホームページ等を活用し、年間の学習計画や授業での様子を紹介し、保護者が児童の外国語活動を知ることができるようにする。

【外国語科】

- ・実際の日常会話を想定した、目的・場面・状況が明確なパフォーマンステストを設定する。パフォーマンステストに向けて、教科書で学習した内容を児童が活用できるように、Small Talk や授業開始後の挨拶の時間に既習事項を繰り返し活用する活動を行う。児童同士がより会話を継続させられるよう、Repeat や Reaction、Ask question を活用する場面を積極的に設定し、会話の仕方を日々練習していく。
- ・5・6年生は、パフォーマンステストの場面・目的・状況を明確にし、オンラインブレインディッド授業を活用したたくさんの ALT と会話を行う活動を設定したり、他学年にパフォーマンステストを紹介したりする等、学校内外を通して、より実践的に取り組んでいきたい。